

第2期鶴岡市文化芸術推進基本計画（案）に対する意見公募の結果

1 概要

（1）募集期間

令和8年8月25日（火）から令和8年9月23日（水）まで（30日間）

（2）意見提出者

2名（意見総数6件）

2 いただいたご意見への対応状況

分類	対応	意見数
賛同	案に対して同趣旨の意見、賛同いただいたもの	
参考	今後の施策や事業実施にあたり参考とさせていただくもの	6件
修正	ご意見の趣旨を参考にして案を修正したもの	
合計		6件

3 ご意見とそれに対する市の考え方

- ・ご意見等は、意見提出者の意図を尊重し、原則として原文のまま掲載しています。
ただし、個人名・団体名等の固有名詞や個人等が特定されるおそれのある記載については、必要に応じて表記を調整している場合があります。

3 ご意見とそれに対する市の考え方

- ・ご意見等は、意見提出者の意図を尊重し、原則として原文のまま掲載しています。
ただし、個人名・団体名等の固有名詞や個人等が特定されるおそれのある記載については、必要に応じて表記を調整している場合があります。

No.	いただいたご意見(原文)	回答No.	ご意見に対する市の考え方	分類
1	「民俗芸能・伝統行事の継承」について意見を申し上げます。 計画に、必要な取組を追加していただきたいと考えます。 私自身の経験・身近な実感として、映像記録は伝統の継承に重要なので進めて欲しいのですが、PRや観客目線での映像はSNSやYouTubeですでに増えてきています。 それらとは異なる視点で文化の記録となる映像を、興味がある人が振り返れる形で残していく事が大切だと思います。昨年、まちキネで公開された黒川の王祇祭を記録した映画「王祇様と暮らす」は、お祭りが細部まで住民の視点で描かれており、参考になると思います。 計画の推進にあたっては、他の地域も人口が減って大変なので、地域の人だけを支援するのではなく、地域の人と外の人と一緒にいう取り組みを支援するのが良いと思います。また、これまで通りの伝統を残す事にこだわりすぎず、現代に合わせながら伝統の一部を残していくことも許容する必要があると思います。この点を大切にしていきたいと思います。 具体的には、鶴岡の中でも特に伝統文化を色濃く残している伝統芸能やお祭りを複数選定して、外の人(市内外)との連携を募って支援してはどうでしょうか？その実施状況や成果についても、市民に分かりやすく示してください。 文化芸術に関わる人だけでなく、これまで接点を持ちにくかった市民の声も聴きながら、計画を着実に改善・実行されることを期待します。	1	(1) 映像記録の推進 映像による記録は伝統の継承に重要な役割を果たすものであり、市としても単なるPR目的ではなく、文化の記録として後世に残すという視点を重視しています。住民視点での映像記録の重要性についても認識しており、これらに留意しながら取り組みを進めてまいります。	参考
		2	(2) 担い手不足 外部人材の受入れ支援については、現在、山形県が実施している「山形県民俗芸能等担い手確保応援事業」を各団体に周知し、活用を希望する団体に寄り添った対応をしてまいります。	参考
		3	(3) 保存・継承のあり方 市としては、引き続き民俗芸能交流発表会や情報交換会、記録保存、助成情報の提供や申請支援等を行い、連綿と受け継がれている民俗芸能を可能な限りそのまま保存・継承できるよう支援してまいります。 また、担い手の皆様が工夫を凝らして伝統行事等を継承している状況とその判断を尊重しつつ、映像記録を文化の記録として後世に残すという視点も重視した取り組みを進めてまいります。	参考
		4	(4) 市民参画 市では文化芸術推進委員会を設置し、計画策定や施策推進について多様な視点から意見をいただいています。今後も文化芸術に関わる人だけでなく、幅広く市民の声を伺い、そのご意見を大切にしながら計画の実現に向けて取り組んでまいります。	参考

2	恥ずかしながらこちらの意見公募の存在を締切日に知りました。本当はしっかりと向き合う時間を取ってから意見を述べるべきかと思いますが、私自身普段より芸術に携わっており鶴岡市での芸術推進においてなにか出来ないかと悩むことも多く、日頃の思う点だけ記載させていただきます。上手く文章でまとまらず、記載内容に失礼がありましたら申し訳ありません。習い事と学校を中心に子供達の芸術に触れる機会について記載させていただきます。 15年程前に鶴岡に移住してきました。移住した当初は芸術はあるけれど個々の(教室などの)活動が多く、習い事などをしていないご家庭では学校以外では芸術に触れる機会がとて少ないと感じました。ただコロナが収まってからのここ5年程は(コロナの騒動が落ち着いた頃からのイメージです)移住の方も増え、教室などではない芸術家達がそれぞれに芸術発信をする機会が増えたのではないかと感じています。これはSNS普及により宣伝活動も増えたことにより情報を得やすくなったのも理由の1つに感じます。 ただあくまで個々での発信が多くあり、都内のように人口が多い地域でしたら気にはなりませんが、鶴岡市はコアな芸術活動が多くあるように感じました。そして高齢の方(失礼な言い方となりすみません)と20～50代ほどの仕事をしながら芸術活動をしている人の交流が少なく感じます。また芸術団体同士の交流も一部のみ、というイメージがあります。人口が多ければ個々でも拡げていける部分はありますが人口の少ない地域なので様々なジャンルの芸術に携われる空間があるといいのでは…。と常々感じています。 学校では芸術をしっかりと勉強時間の枠に入れるには負担が多いはずですし、個々の芸術教室が発信してある程度までしか拡げられないのではと感じています。教室での活動となると保護者の送迎が必ず必要になります。個々が一番の問題なのではないかと。 習い事の費用も問題にはなりますがお子さんの意思があれば保護者も応援はしてくれます。ただ共働きの多い山形では送り迎えが出来る時間帯、そして冬の渋滞でも行き来できる場所が必ず芸術に触れる前の必要条件になります。またジャンルの違う習い事などをする場合は、日によって送迎場所も変わるので、芸術に触れる前の時点で難しい部分があるのではないかと。 私のような一個人がどうにかして保護者の人達がやり易い、子供達が関わりやすい環境を作るのはとても難しい問題だと感じています。施設や芸術発信をしていく団体などのイベントについても、情報を得てもそこに時間をかけて保護者が送迎をしてまで参加するのかといえば、参加しない方も多いです。 そしてここに個々でのイベントが多いので関東や仙台にあるようなイベントに比べて物足りなさが出てきてしまいます。だからこそ芸能人などのテレビでみるアーティストのイベントのみチケットが即完売となってしまうのではないかなと。 鶴岡市の芸術関係の方それぞれが頑張っているのに子供達のいる市民の方達の行動までは繋がらない。そのように感じています。 この問題を少しでも解決できないものかと日々悩み何か出来ないかな、この意見を出すことで何か良い方向に変わる小さな1歩になればと思っています。 私自身もこの議題を通して出来ることを探し続けようと思います。	5	(1) 多様な交流 市では、子どもたちが芸術に触れる機会として、鶴岡アートフォーラムにおける教育普及展覧会や美術講座、荘銀タクト鶴岡(鶴岡市文化会館)における音楽・アート等の総合イベントや舞台探検プログラムなどを実施しています。世代・団体間交流や、様々な分野の芸術に携わることが出来る空間の必要性などのご指摘は、市として向き合うべき課題であり、各団体と連携して検討してまいります。	参考
		6	(2) 習い事等への送迎 子どもたちが芸術に触れる前に、その場に行くこと自体が難しく、保護者等の送迎が条件になってしまうという状況があることについては、課題として受け止めており、芸術分野だけでなくスポーツなど他分野の活動機会においても同様の課題があるものと認識しております。子どもたちとそのご家族がより容易に参加することができるような環境づくりと情報提供に努めてまいります。	参考